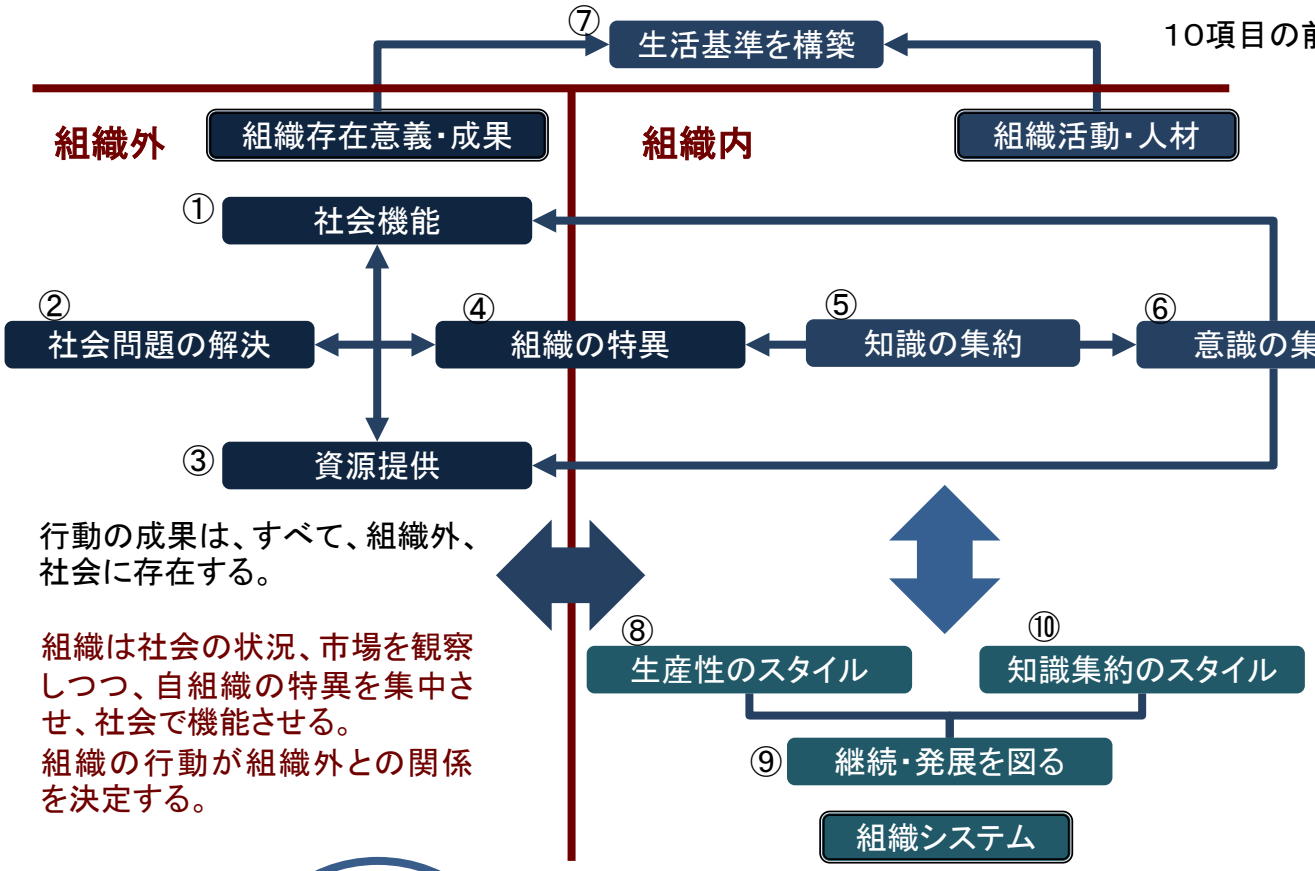
組織が力を発揮する方向

それぞれの組織が、個々の組織を特定できるように、自らの事業を表現し、実現しなければならない。



10項目の前提・定義の関連は、左図になる。

すべての組織内活動は、内から外に向かって動く。組織外を計画しないで、組織内活動は生きてこない。

知識の集約、意識を集合させ、組織の特異を発揮させる。

組織内に存在する知識・技術を抽出する。人材が持っている知識・技術を未活用を含めて洗い出す。
外部に対する意識をもって、知識・技術を集め、集めた結果が資源を社会に提供し、社会機能を果たす。

行動の成果は、すべて、組織外、社会に存在する。

組織は社会の状況、市場を観察しつつ、自組織の特異を集中させ、社会で機能させる。
組織の行動が組織外との関係を決定する。

組織システムは、人材活動を最適に行えるように設計する。人材活動が一つの方向にまとまるように設計する。活動の制限、阻害をしてはならない。但し、組織の社会機能促進を進めなければならない。

左に挙げた大分類した3つ、全体で10項目について、自組織にとっての定義を、しなければならない。社会変化に応じて、常に見直さなければならない。

copyright SeedWin